

# お茶うけ 第25話

## 四十雀とペットボトル

「ほら、ほら、カラコが来たよ。見てごらん」と、母が嬉しそうに高い声を上げて、庭の方を指さします。見ると一羽の四十雀(しじゅうから)が、生け垣に吊り下げたペットボトルから餌をついばんでは、そばの高野槇(こうやまき)の葉陰に移って食べます。数回往復して、さっと飛び去りました。「そのうちにまた来るよ。今日は雨だから」と母は自信ありげです。

母は、孫娘が最近購入した町田の家に一緒に住んでいます。ここは、下からだんだんに建てられた住宅が、やっと岡の上にたどり着いた風情で、見晴らしの良い窓からは、小さな森を見ることができます。

元気な92歳の母は窓際に座って、一日中趣味の刺繍に熱中しています。庭に四十雀が来るのを見つけたもう一人の孫娘が、祖母の気晴らしにと餌付けを思い立って、早速『野鳥の来る庭』の本で、手近な物のリサイクルで餌箱を作るアイデア集の中の1つを参考に、「ペットボトルの餌箱」を作りました。ペットボトルの底から3cm程上に、2本の割り箸を十文字に突き通して足場を作り、その足場の斜め下に餌をついばむための小さな穴を開け、底に雨が溜まらないように細かい穴を幾つも開けますと、餌箱が出来上がります。ひまわりの種を底に入れて吊るしておく、四十雀は足場に止まって器用に種をくわえ、高野槇に移って実を食べるのです。その可愛い仕種は見えていて飽きることがありません。呼び名は、四十雀の性別が分からないため、とりあえず雄だと思ふ人は「カラオ」と呼び、雌かなと思ふ人は「カラコ」と呼んでいるということです。

四十雀は毎日のように庭に姿を見せますが、晴れた日は自然の餌が多いようで回数は少めで、曇りや雨の日は餌が少ないためか回数が多いとのこと。それならば、野鳥本来の食餌のバランスを乱すこともないかと何となく安心しました。

今ペットボトル(PET bottle)のリサイクルが社会問題になっています。PETはポリエチレンテレフタレート(Polyethylene Terephthalate)の略語で、PETから優れたプラスチック(繊維、合成樹脂)を作ることができますが、PETは成分の比重の差を利用して水による分離が可能であり、リサイクルし易いものと言われます。素材がリサイクルし易いのであれば、問題のポイントは回収してリサイクル工場に集める仕組みや、再生に対する利用者の熱意の方にあることになります。



以上